

【宮崎県納税貯蓄組合連合会会長賞】

陰のヒーロー

小林市立西小林中学校

三年 小倉 智大

「税なんて何に使うのだろう」ふと、そう思うことがあった。税金なんて何に使っているのかよくわからないし、消費税もここ何年かで上がってきている。税は本当に必要なのか。その頃の僕にはわからなかった。

昨年冬、僕は肘を剥離骨折してしまった。僕は軽い方で、最悪の場合だと手術をしなければならなかったが、幸いリハビリだけで済んだ。手術になればそれなりの費用が必要になる。僕は母に、「手術になったら結構なお金が必要になったから、手術にならなくて良かったね」と言った。すると母は、

「手術になっても医療助成金が出るから、あまり費用はかからないよ」と言った。医療助成金とは何だろうか。僕は調べてみることにした。医療助成金制度とは、医療費の何割かを県や市町村が負担してくれる制度のことだ。これには、みんなから集めた税金が使われている。僕が知らない所で、税金はみんなを助けていたのだ。知らず知らずのうちに僕は税金に助けられていたのかもしれないと思うと、とても感謝の気持ちでいっぱいになった。

もし、税金がなかったらどうなってしまうのだろうか。僕は4つのことを考えた。

1つ目は、火災が起こった時、消防に火を消してもらうのにお金がかかってしまい、消防を頼みづらくなるということだ。現在、火災が起きたら消防に躊躇なく電話出来るのは、税金によって無償で消火してもらえるからであろう。

2つ目は、救急車が来なくなるということだ。救急車は税金によって利用できるようになっていて、急いで手当をしないといけないのに助けることができない。といった状況がなくし、死者を減らすことにも税金は役に立っている。

3つ目は、公園や道などを管理する人がいなくなり、きれいに整備することができなくなるということだ。公共施設の整備なども税金が使われているため、税金がなくなると日本は不潔な公園や道などであふれかえってしまうだろう。

4つ目は、税金がなければ僕たちは勉強ができないということだ。学校の教科書や机、いすなども税金で作られている。そう考えると税金は、実は身近で大活躍しているのだ。

この他にも税金がなかったら今では考えられないようなことがたくさんあると思う。税金は僕たちの暮らしを豊かに彩り、支えてくれている。税金は陰のヒーローなのだ。税金がなければ僕たちの生活は現在のように送れず、いろんなことがままならないだろう。

あの頃は、何のためにあるのかわからなかった税金が、今では僕たちが生きる上でとても大切で必要不可欠であることを知った。だからこそ、自分のために、みんなのために、これからも税金を払っていいこうと思えるようになった。

将来、僕もいろんな税金を払うことになる。その時に嫌々払うのではなく、快く納税できるようにしたい。税金のおかげで成り立っている社会に感謝し、日々を生きていきたい。